

第 42 話〈統計書〉の要約と参考資料

第 42 話〈統計書〉の要約

宮崎県は、土呂久公害を調査した報告書に「竹内令さく（貝へんに乍）氏が明治中期から 1920 年まで亜ヒ酸製錬を行なった」と書きました。調べてみると、それは間違いで、竹内氏は 1920 年からヒ鉱の掘削を始めていました。ヒ鉱から亜ヒ酸を製造したのは別の人でした。

第 42 話〈統計書〉の参考資料

4 2 - 1 宮崎県の文書による亜ヒ酸製造がおこなわれた時期

宮崎県「土呂久地区の鉱害にかかわる社会医学的調査の要約」（1972 年 7 月）P4

沿革（「九州の金属鉱業」通産省編、参考）

明治維新後は、肥後の国細川家の老橋本伊十郎が、鉱山の開発を企図したが不成功に終り、明治の中期から大正 9 年まで、岩戸村の住人竹内令さく（貝へんに乍）氏が亜硫酸の製錬を行った。同 9 年から 14 年まで大分県の宮城正一氏、同 15 年から昭和 9 年まで、大分県佐伯市の川田平三郎氏らの手に渡ったが、昭和 10 年現在の中島鉱山株式会社の経営下に入り、同社は、鉱床の露頭部に近い気成酸化帯の錫鉱の探・採鉱の目的で、当時すでに同社が所有していた附近の隣接鉱区とともに開発を行ない、さらに同年 9 月、岩戸村東岸寺に 6000t/M の選鉱場を完成して操業を開始し、これと併行して建設中の延岡市土々呂町櫛津の土々呂製錬所の完成とともに、錫精鉱を同所に送り、製錬を開始した。なお、昭和 11 年 12 月資本金 1000 万円の鉱山株式会社が設立されて、中島鉱山株式会社の一切の権利を継承した。

（中略）

終戦後、鉱業権はふたたび中島鉱山株式会社の手に戻したが、昭和 29 年含銀方鉛鉱と鉄閃亜鉛鉱を主体とする富鉱体に着脈し、従来の砒鉱と高品位の鉛・亜鉛鉱などを合わせて、粗鉱月間 1000t を生産するに至り、さらに昭和 31 年から、本鉱山に隣接する採登第 1 号鉱山（旧黒葛原鉱山）採鉱を開始した。

なお、中島鉱山株式会社は昭和 33 年末鯛生鉱業株式会社の系列に入り、事業の強化を計った。その後、同社は昭和 37 年操業を中止し、42 年 3 月末解散するとともに、鉱区は住友金属鉱山株式会社の所有となった。

砒鉱は、元鉱品位砒素 22～29%を含有し、亜硫酸製錬の対象として、戦後は、直接佐賀関精錬所に売鉱したものもあり、昭和 30 年以降、昭和 37 年までは、山元の精錬場で製錬し亜硫酸 50～100t / 年程度産出している。

宮崎県環境白書（平成以後；ホームページより）

第14章 公害健康被害

第2節 土呂久地区に係る公害健康被害の現況

1. 法による地域指定までの経緯

土呂久地区は、西臼杵郡高千穂町の中心地三田井地区から北東に約14kmの大分県境に接する山間の集落地であり、集落に隣接する地域に田畑があるほかは、地区の大部分は山林です。この土呂久地区には、古くから土呂久鉱山があり、一説によれば、慶長年間（1596～1614）に鉱山として開山されたといわれています。その後、数度の中絶はありましたが、坑道の水没をきっかけとして昭和37年に操業を中止するまで稼働しました。

昭和46年11月に、過去の土呂久鉱山の亜硫酸焙焼等によって、地域住民の中に健康被害があるとの問題提起がなされたため、県は直ちに関係機関に呼びかけ、同年11月から昭和47年7月にかけて、住民に対する健康調査及び疫学調査並びに周辺地域に関する環境分析調査を内容とする「土呂久地区社会医学的調査」を実施し、昭和47年7月に結果の発表を行いました。

42-2 土呂久鉱山の鉱種と産出高

宮崎県統計書より

年	鉱山名	鉱種	坪数	採掘高	鉱石販売高 精錬高	製品販売 高	鉱業人
1891年 (明 24)	(岩戸土呂 久吹谷外1 字)	銀、銅、 鉛	13,743 坪	1,071貫	31貫	37円	新井宜哉 (借区人)
1892年 (明 25)	外録	銀、銅、 鉛	13,743 坪	—	—	—	木村直次郎
1893年 (明 26)	外録	銀、鉛、 銅	13,743 坪	—	—	—	木村直次郎
1894年 (明 27)	外録	銀、銅、 鉛	13,743 坪	銅 2,876貫 鉛 159貫	銅 2,626貫 532斤 鉛 159貫 84斤	55円 14円	竹内令さく (貝に乍)
1895年 (明 28)	外録の記載 がない						

1896年 (明 29)	外録	鉛、銀、 銅	13,743 坪		250貫 74斤	10円	竹内令さく
1897年 (明 30)～ 1911年 (明 44)	郡別の統計 になって、 個別鉱山の 記載はない						
1912年 (大1)	岩戸村 休	銀、銅、 鉛	12,250 坪				竹内令さく (許可年月 日) 明治27年10 月22日
1913年 (大2)	休	銀、銅、 鉛	12,250 坪				竹内令さく
1914年 (大3) ～ 1921年 (大 10)	外録の記載 はない						
1922年 (大 11)	外録	金、銀、 銅、錫、 砒		75,650貫	83,150貫	1,215円	—
1923年 (大 12)	外録	砒		179,500貫	179,500貫	4,151円	—
1924年 (大 13)	外録	砒		295,750貫	287,750貫	5,138円	—
1925年 (大 14)	外録			318,600貫	318,600貫	9,280円	—
1926年 (大 15)	外録	銅		410貫	410貫	100円	—
1928年 (昭3)	外録	砒		93,200貫	84,000貫	1,260円	—
1929年 (昭4)	外録	砒		854トン	684トン	2,925円	—

1930年 (昭5)	外録	砒		655 トン	530 トン	2,119 円	—
1931年 (昭6)	外録	砒		778 トン	629 トン	2,513 円	—
1932年 (昭7)	外録	砒		770 トン	623 トン	2,490 円	—
1933年 (昭8)	外録	砒		773 トン	396 トン 製出高 (亜ヒ酸) 49,200 キロ	1,683 円 9,057 円	—
1934年 (昭9)	外録	砒		941 トン	725 トン 製出高 (亜ヒ酸) 149,963 キロ	— 19,469 円	—
1935年 (昭10)	外録	砒		832 トン	製出高 (亜ヒ酸) 151,160 キロ	 24,395 円	—

*宮崎県統計書の1893年と1894年は、年を誤っていると思われるので、川原が入れ替えた。理由は、高千穂町史が、竹内令さくが鉱業条例によって採掘許可を得たのは明治27(1894)年10月22日と記していること、1892年に木村直次郎が鉱業人になり、1893年は竹内、1884年は再び木村ということの不自然さを考えると、県統計書が誤っていると判断した。

日本鉱業名鑑(大正13年改訂)より

竹内令さく(貝に乍)

鉱山名	町 村	坪数	鉱種	産 額
外録	岩戸村	12,250 坪	金、銀、銅、亜鉛、鉛、 砒	大正9年 砒粗鉱 51,400 貫
外録	岩戸村	12,250 坪	金、銀、銅、亜鉛、鉛、 砒	大正10年 砒粗鉱 60,700 貫
外録	岩戸村	12,250 坪	金、銀、銅、亜鉛、鉛、 砒	大正11年 砒粗鉱 75,700 貫
外録	岩戸村	12,250 坪	金、銀、銅、亜鉛、鉛、 砒	大正12年 砒粗鉱 179,500 貫

福岡鉱山監督署管内鉱区一覧（福岡鉱務署刊）より

大正 5 年 7 月 1 日

登録番号	町村	鉱山名	鉱種	鉱区坪数	鉱産額
特 2554	岩戸			12,250	

福岡鉱務所管内鉱区一覧

登録番号	町村名	鉱山名	鉱種	鉱区坪数	鉱産額	鉱業権者 住所
登 80 号	岩戸村	外録鉱山	金、銀、銅、亜鉛、鉛、砒	12,250 坪	大正 11 年 砒粗鉱 75,650 貫	竹内令さく 宮崎県西臼杵郡岩戸村 279
同上	同上	同上	同上	同上	大正 13 年 砒粗鉱 295,750 貫	同上
同上	同上	同上	同上	同上	大正 15 年 (昭和元) 銀銅鉱 410 貫	同上
同上	同上	同上	同上	同上	昭和 3 年 砒精鉱 84,000 貫	同上
同上	同上	同上	同上	同上	昭和 4 年 砒鉱 6,835 トン	同上
同上	同上	同上	同上	同上	昭和 5 年 砒鉱 529.7 トン	同上
同上	同上	同上	同上	同上	昭和 6 年 砒鉱 629.3 トン	同上
同上	同上	同上	同上	同上	昭和 7 年 砒鉱 623.4 トン	同上
同上	同上	同上	同上	同上	昭和 8 年 砒鉱 395.5 トン 亜砒酸 49,221.9 キロ	中島門吉 東京市牛込区高谷仲之町 10
同上	同上	同上	同上	同上	昭和 9 年 亜砒酸 149.763 トン	同上
同上	同上	同上	同上	同上	昭和 10 年 亜砒酸 151,160 トン	同上

登 80 号	登 65 号ト合併ス					
登 65 号	岩戸村	吹谷鉾山			昭和 4 年 亜硫酸 3,937 キロ	大谷治忠 宮崎県東臼 杵郡恒富村 大字恒富北 1321
同上	同上	昭和 9 年 7 月 1 日 現在 岩戸鉾山	銀、銅、鉛、亜 鉛、砒	236,640 坪		中島門吉 東京市牛込 区高谷仲之 町 10
登 65 号	岩戸村	岩戸鉾山	金、銀、銅、鉛、 錫、亜鉛、鉛	247,500 坪	昭和 11 年 亜硫酸 45,455 キロ 錫 7,806 キロ	岩戸鉾山株 式会社
		昭和 14 年 7 月 1 日付より 土呂久				
	土呂久鉾山に昭和 15 年の管内鉾区一覧より重がついて重要鉾山になったことを示している。					
65 号	岩戸	昭和 17 年 7 月 1 日現在 土呂久	金、銀、銅、鉛、 錫、亜鉛、鉛	247,500 坪		岩戸鉾山株 式会社

本邦鉾業ノ趨勢（商工省鉾山局編纂）より

昭和 3 年版

新事業ニ着手シタル鉾山

宮崎県 採 80（外録） 銀、銅、亜鉛、鉛、金、亜鉛、砒 岩戸村 竹内令さく

着手セル月 9 月

鉾山別産額 金属山 / 昭和 14 年からは鉾種別主要鉾山別鉾産額

年	鉾山監督局	鉾山名	所在	鉾業権者	其他数量 (価額)	鉾石類数量 (価額)	価額計	鉾夫数
昭和 8 (1933) 年	福岡	外録	宮崎	関口暁三 郎	亜硫酸 49,222 キロ 9,057 円	砒鉾 396 トン 2,887 円	11,944 円	6 月末 18 人
昭和 9 (1934) 年	福岡	外録	宮崎	中島門吉	亜硫酸 147,763 キロ 19,469 円		19,469 円	6 月末 43 人
昭和 10 (1935) 年	福岡	外録	宮崎	中島門吉	亜硫酸 151,160 キロ 24,395 円		24,395 円	43 人
昭和 13 (1938) 年	福岡	土呂 久	宮崎			錫 21,603 キ ロ		

昭和 14 (1939) 年	福岡	土呂 久	宮崎		亜硫酸 229,2 トン 36,672 円	昭和 14 年 錫 42,308 キ ロ 173,464 円	210,136 円	329 人
昭和 15 (1940) 年					亜硫酸 283,000 キロ 62,854 円	錫 31,299 キ ロ 225,945 円	288,799 円	6 月末 311 人

4 2 - 3 竹内令さくについて

高千穂町史 (P590) より

其の後どう廻ったか判明しないが、明治 27 年山口県阿武郡篠生村の竹内 答作^{タツヤ}が四国の別子銅山から来て、農商務省の特許をとって 10 月 22 日から採掘にかかった。其の後大正 7 年 8 月 22 日宮崎県採掘権を新しく登録して事業を続けたが、この頃から副産物である需要が多く、大正 9 年頃には 120 ポンド入 1 箱 25 円から 30 円して土呂久鉱山はアヒサン鉱山に変身した。

養子の竹内勲の話 (1972 年 2 月 17 日聴取)

私は京都出身で、竹内の養子です。今年 69 歳。私が 4 つのときに土呂久に行くまでは母と一緒に京都にいました。竹内は山口県の萩 (阿武郡は現在萩市に含まれている) の出身で、住友の生野銀山の技師だったのですが、内藤家に鉱山部があって、そのの笠原 (鷲太郎) という技師長と仲良しだったようで、森田三弥以来の銀山に来たんでしょう。細々と坑口あたりの 1 万 2 千坪くらいの鉱業権を持ち続けたわけです。明治 32, 33 年ごろからでしょう。

私は小学校をでてすぐ 15、16 歳のときから 22, 23 歳まで大阪に行き、神戸の貿易商が振りだして修行をつんで、昭和 4 年に岩戸に帰ってきました。私の住宅は岩戸神社の前でした。土呂久まで歩いて行ったので、1 泊するか、日帰りでしたね。私は鉱脈を測定することがあったんです。どっちに掘っていいかわからんときに、坑内測量といって、親父から習って相談に行くくらいでした。

そのころは川田 (平三郎) さんが亜ヒ焼きをやっていて、盛んになったのが昭和 5, 6 年でした。川田は竹内から採掘権を借りて、1 トン鉱石を掘るといくらかという計算で払っていました。竹内は税金を払いながら鉱業権をもちつづけました。昭和 8 年に中島に鉱業権を売ったとき、3 万円くらいだったでしょう。

川田は佐伯の商人で、野村さんは川田といっしょに来た支配人みたいな人です。川田は亜ヒ酸の事業をやる企業家でしたが、自分の資本じゃなく、神戸の山口商会の協力を得て、

品物をどこそこに送るというように請けてやっていました。山口商会は農薬会社で、山口商会の主人が佐伯の出身だったので、「お前やってみるか」と、川田に言ったのではないですか。